

平成21年度動物愛護週間中央行事「動物愛護ふれあいフェスティバル」

動物愛護シンポジウム

「めざせ！満点飼い主—ペットの高齢化について考える」



司会

山崎いく子 社団法人日本愛玩動物協会常任理事

基調講演

若山 正之 若山動物病院院長

パネルディスカッション

コーディネーター

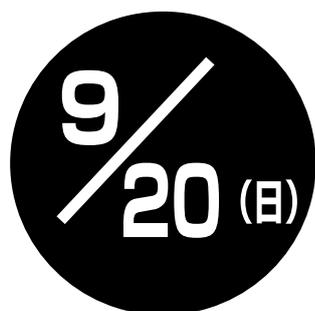
鷺巣 月美 日本獣医生命科学大学准教授

パネリスト

若山 正之 若山動物病院院長

井上 留美 ヤマザキ動物専門学校副校長

中塚 圭子 ドルチェ・カーネ中塚代表



12:30 ~ 16:30
東京国立博物館（平成館講堂）

(シンポジウムは、13:50 ~ 16:30)

主催：動物愛護週間中央行事実行委員会

環境省／東京都／台東区／財団法人日本動物愛護協会／社団法人日本動物福祉協会／社団法人日本愛玩動物協会／社団法人日本動物保護管理協会／社団法人日本動物園水族館協会／社団法人東京都家庭動物愛護協会／社団法人日本新聞協会／社団法人日本雑誌協会

12:30 から動物愛護週間制定 60 周年記念切手贈呈式、関係機関の表彰式を行いますので、こちらもどうぞ御参加下さい。

若山 正之（わかやま まさゆき）



プロフィール

生まれは 1952 年東京都世田谷、育ちは茨城県水戸市。酪農学園大学獣医科卒業。

若山動物病院 院長、株式会社わかやま 代表取締役、動物用サプリメント shop “Nyanとかシロ” 代表、国際動物専門学校 非常勤講師

「死ぬまで自立歩行が可能で、自分で食べて排便ができる」を目標とし「介護生活とならないように」を目指した「老齡管理」を行っています！

合い言葉は「太～く、長～く、楽しく、明るく生きよう！」

老齡管理で大切な四つの病気を知って、太～く！長～く！生きよう

犬猫はペットの時代から伴侶動物として、家族の一員として我が子同様ともなっています。しかもその我が子の飼育頭数はヒトの子供の数よりも多く、老齡とされる 7 歳以上の子たちはその半数を超え、しかも 20 歳を過ぎてても元気に暮らしている子もいます。

「アンチエイジング」という言葉が流行るように、老いていく事を自ら望む者はいません。しかし「老化」は、すべての生き物に共通に与えられた生物学的なプロセスで、いくら努力しても避ける事も止める事もできません。このように高齡化が進むと、ヒトだけでなくイヌや猫でもシニア期の健康管理や看護・介護への関心が高まってくるのは当然の事だと思います。

ヒトも犬猫も、若い時代は健康管理が十分にできなくても何ら問題も無く元気に暮らす事が多いようです。しかし多くの飼い主さんたちは、老化が進むに従いそれなりの兆候を感じ取り「歳をとると、あちこちに不調が出る事が多くなったなあ～」と健康の状態が気になってきます。その中には「関節疾患」や「歯周病」など生活習慣が原因となるものもあります。

我々が日々の診療の中で話をしている「老齡管理で注意したい病気」とは、歯周病などの「歯科疾患」、弁膜症などの「心臓疾患」、関節や椎間板疾患などの「骨・関節疾患」、甲状腺ホルモン分泌異常の「甲状腺疾患」の四つの病気です。

歯科疾患の一つである歯周病は、その痛みから食欲や元気も無くすだけでなく、歯肉の血管から細菌が入り込み、心臓病や関節疾患、腎臓疾患など、体中に様々な病気を引き起こす原因ともなります。たかが歯石とっていては、いけません！

心疾患に罹ると血流の維持ができず、心血管系を含む多くの組織や器官に悪影響を与えてしまう事が知られています。見た目は何の症状も見られないが心臓には異常が出ている、そのような時期を逃

してしまってからでは治療が間に合わないこともあります。

膝や肘などの関節の磨り減りや、椎間板ヘルニアや変形性脊椎などの骨関節疾患では、患部の周辺に痛みや神経の麻痺が起こります。これらが原因となり、食欲や元気も無くなったり体の動きが悪くなったり、最悪は寝たきりにもなってしまいます。

喉のところにある甲状腺から分泌される甲状腺ホルモンは、エネルギー代謝やたんぱく質代謝、糖質代謝など身体の様々な代謝に作用します。このホルモンの分泌が悪くなる甲状腺機能低下症は老齢犬にとっても多く診られ、その症状はまるで普通の老化現象であるかのようにも見えるためよく見逃されてしまう病気です。

これらの病気は、発症してからケアを始めても遅いものもあります。イヌの老化のスピードは、ヒトに比べて相当早いものです。そのためシニア期を快適に暮らすには、体調の変化に気が付き、また病気を早期に見つけ出し、対処していく事がとても大切となります。

老いや病気を避けることはできませんが、それらにも負けず長生きする秘訣があります。それは、一に「飼い主さんの愛情」、二に「食事や飼い方などの飼育環境」、三に「獣医師や動物看護師の技量」と思っています。

動物がヒトと大きく異なる点は、「自分の意志で生活を改善する事ができない」事です。そのためイヌや猫の生活の質を改善するには、飼い主さんの意志でするしかないのです。老化のサインを見つけ出すのも飼い主さん、体の不調を見つけ出すのも飼い主さんなのです。飼い主さんは何らかの兆候に気が付き、生活を改善するための行動を起こさなくてはなりません。

そして手当をするのも、動物病院に連れて来るのも飼い主さんです。飼い主さんの愛情なしには、健康で長生きはできません。

またいくら愛情があっても、環境が良くないと健康には暮らせません。生きるために必要な食事も、その内容がとても大切です。また心理状態も、健康に大きく左右します。そのため病気であっても病気でなくても快適に過ごすには、食事の内容と住環境がとても大切なのです。

そして我が子たちに問題があった時に飼い主さんをフォローするのは、獣医師や動物看護師です。そのため豊富な知識や経験など、我々動物病院スタッフの持つ技量が重要になります。

時の流れる速さはすべての生き物に対して同じでも、老化が進む速さは個体それぞれです。高齢に見られる様々なサインのすべてが、老化現象とは限りません。中には病気による症状という事もあります。そのため「歳のせい」と決めつけたり、「歳だからしかたない」の一言で済ませてはなりません。

また飼い方によって命の長さが左右されてしまう…それがヒトに飼われている動物の宿命なのです。愛犬愛猫の老いを認識し、これから明るく楽しく元気に暮らすにはどうしたら良いのか一緒に考えていきましょう！

井上 留美 (いのうえ るみ)



プロフィール

ヤマザキ動物専門学校副校長
アニマル・ヘルス・テクニシャン
(動物衛生看護師)、ペット栄養管理士

山形県出身。日本動物看護学院（現：ヤマザキ動物専門学校）で3年制教育の1期生として学び、卒業後に都内港区の動物病院へ10年間勤務。その後、講師として母校へ戻る。現在は副校長として動物看護師を育成中。最近は動物のリハビリテーションへ興味を持ち、自らも研鑽中。

NPO 法人日本動物衛生看護師協会 副会長
社団法人日本動物福祉協会新東京支部 支部長
一般社団法人日本動物看護職協会 理事

高齢動物の QOL ーわたしたちができることー

近年、犬や猫を飼う人々は「家族の一員」ととどまらず「人生のパートナー」として彼らと生活をともにしており、動物たちが受ける医療やサービスはより高度な質が求められています。日本における少子高齢化や核家族化などに要因する社会的構造の変化は、コンパニオンアニマルの飼育数の増大をもたらし、現在、犬 1,300 万頭超、猫 1,000 万頭超が飼育されていると推定されています。しかも、その約半数が 7 歳以上のシニア動物であるようです。

また、ある調査によると、この不況下でもペットにかかる年間支出は前年比で 20%も増加しており、特に治療費や予防費、衛生費など、健康に関連する項目での上昇が顕著です。また、食餌に対しても価格に関わらず、安全性を重視する傾向が進んでいます。一般的にペットの高齢化が進んだことで、飼い主がより健康状態に留意し、飼育管理に対する意識が高まっているものと考えられます。

ところで、みなさんは動物看護師をご存じですか？ペット関連サービスにおける労働市場規模約 3 万人の内、臨床現場で活躍する動物看護師は約 2 万人といわれています。今や動物看護師は動物医療に欠かせない存在になっています。動物看護師は動物看護の専門職として幅広い仕事に従事していますが、最近はそのなかでも、在宅看護や介護、シャンプーや被毛のお手入れ法、栄養指導や健康管理のアドバイス、しつけの相談や心のケアに至る、いわゆる飼い主さんへのサポート業務が、比重の多くを占めるようになってきました。

わたしたちの大切なかけがえのない「伴侶」である動物たちが、健康で長生きができるために日常生活で心がけたいことや、老齢期を迎えた動物の QOL 向上に配慮したケアやサービス。そして、みなさんの身近にいる動物看護師が動物のみならず、飼い主さんを支えていく存在であることをお伝えしたいと存じます。

中塚 圭子 (なかつか けいこ)



プロフィール

飼い主と愛犬のためのマナー教室
「ドルチェ・カーネ中塚」主催
JAHA（日本動物病院福祉協会）認定
ドッグトレーニングインストラクター
神戸市動物管理センターしつけ相談窓口担当

新潟大学卒業。小学校教諭を経て、94年に自宅スタジオにてドッグ・スクール「ドルチェ・カーネ中塚」を開催。これまでに指導してきた犬は約4500頭。大阪ペイ動物看護専門学校講師を務めるほか、神戸市をはじめとする自治体主催の「家庭犬のしつけ教室」などでも指導。愛護推進員として毎週金曜日神戸市動物管理センターしつけ相談勤務。現在兵庫県立大学大学院環境人間学専攻科にて人と犬との共生社会を研究中。

<近著>

「犬の老いじたく」角川コミュニケーションズ 2008.3.15 発行
「はじめてでも安心!かわいい子犬の育て方」
中塚圭子・内田希共著 メイツ出版株式会社 2008.12.15. 発行
「犬のしつけ方マニュアル」中塚監修 神戸市広報印刷物

飼い主ネットワークで犬の老いの不安を解消—老犬教室の実際

現在日本では犬の半数が7歳以上の老犬であるという現状があります。老犬を抱える飼い主には愛犬の老化による変化にとまどいを感じ、不安に陥る方も増えています。

身体の異常ならば獣医師と相談し、治療を受けることで悩みは解決します。同様に、老化に伴い習慣や性格が変化していく愛犬にどう対処していけばよいのかを相談し、解消する場が飼い主にとって重要となってきました。そこで老犬の悩みを解消したい、もう一度老犬でも楽しめる教室をという飼い主の要請に応じて、私は2006年より、「老犬教室」を始めました。今回は、飼い主とその犬たちに起きた様々な老化の悩みの実例とその解決方法、そしてまだあまり情報として紹介されていない犬の老化に戸惑ったときの、飼い主の心構えや老犬ならではの楽しみ方について紹介します。

まず、老犬といえども、無理のない運動は必要です。若い頃ならスピードや正確さを運動で競いますが、老犬の運動は、とにかくスローペースで行いバランスをとることを重視します。教室でも家でもできる「簡単アジリティ」は犬に身体機能の維持、出来ることの喜びを与えることが出来ます。

次に老犬の飼い主が戸惑うのが「食への執着」です。若い頃はしつけで何とか抑えることができたのに、ものを破壊したり、意外な場所に侵入したり、耳をつんざくような要求吠えをしたりと、泣くに泣けない状況に陥ることもあります。少量でも食べたという満足感の出るような与え方として、大きなフード入れに例えば誤飲させない大きさのボールを数個入れてすぐにはフードを食べられないよ

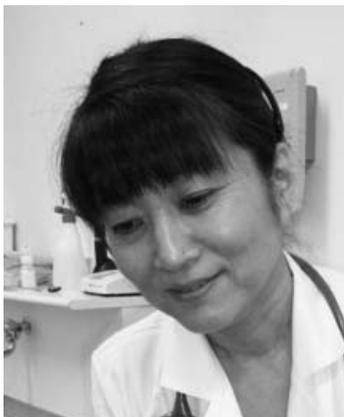
うな工夫をし、ゆっくり味わって食べさせる工夫をします。また、要求吠えにも、「ある程度受け入れる」という、老犬ならではの考え方も大切になります。

最後に、飼い主の悩みは同じ経験をもつ飼い主同士の情報交換をすることで心理的な安定を得ることができます。老犬ケアや暮らし方の工夫を紹介し合ったり、不安に思っていることを飼い主同士で聞いてもらったりしながらの、ティータイムを設定しています。時には飼い主の健康管理のために、簡単にできる食事やおやつを持ち寄ることもあります。皆さん同様に誰でも通る道であることを確認し、自分の犬に応用していきます。ネットワークがはぐくむ飼い主の心と体の健康は、老犬のいる暮らしのベースとなるものです。

MEMO



鷺巣 月美 (わしず つきみ)



プロフィール

日本獣医生命科学大学獣医学科
准教授、獣医学博士

日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）獣医学科卒業後、静岡県で動物病院を開業。その後、カリフォルニア大学に留学し、修士課程卒業。帰国後は母校の獣医臨床病理学教室に勤務、現在に至る。

著書

「ペットの死、その時あなたは」（三省堂）
「ペットががんになったとき」（三省堂）ほか。

看取りとペトロス

老衰で痛みも苦しみも無く、自然な旅立ちができればよいのですが、時に医療の介入が必要になることがあります。伴侶動物医療では、老齢動物、腫瘍や慢性疾患の末期において、悲しいことではありますが、安楽死に最後の救いを求めなければならないことがあります。ここでいう安楽死は、動物のクオリティー・オブ・ライフ（QOL）が著しく低下した場合に、動物を苦しみから解放する最後の手段として止むを得ず選択されるものです。

安楽死を考慮せざるを得ない状況としては、回復が望めない呼吸困難とコントロール不可能な痛みがあげられます。このような場合も酸素室に入れる、あるいは麻酔をかけるなどの手段により一時的に動物を苦痛から解放することはできますが、動物医療においては長期的な方法とはなりにくいと考えます。

動物医療においては、動物の身体的要因だけでなく、看護にあたる家族側の要因を無視して動物のQOLを評価することは不可能です。家族が体力的、時間的および経済的に、重病の動物を看護することが難しい場合、悲しい現実ではありますが、安楽死を選択せざるを得ないこともあると思います。

動物のQOLが著しく低下し、安楽死が適応となると判断するのは獣医師ですが、最終的に結論を出すのは家族であり、決断に無理があると安楽死後に悔いを残すこととなります。安楽死について、「自分以外の命を絶つことを決める権利が自分にはあるのか」という声を耳にしますが、私たちは、動物と暮らし始めたその日から「命も含めた委任状」を動物から預かっているのです。

共に暮らす動物の寿命は、多くの場合、私たちの寿命よりも短いので、動物と暮らすということは、いつか「動物を失うこと」や「動物を亡くした悲しみ、寂しさ」を経験するということです。共に暮らした動物を亡くした時の「悲しい気持ち」をペトロスと表現しますが、ペトロスは決して特別なことではなく、また病的な状態でもなく、誰でもが経験する「大切な家族を失った悲しみ」であり、生きている間に「絆」があったから経験する「悲しみ」です。より良い最期を迎えるために、家族としてできること、すべきことを考えてみましょう。

平成21年度動物愛護週間中央行事 屋内行事次第

11:40 受付開始 12:00 開場

1

12:30～12:40 開会 (司会 山崎いく子)
主催者挨拶

2

12:40～12:50 動物愛護週間制定60周年記念切手贈呈式

3

12:50～13:40 表彰式
(環境省／(社)日本動物保護管理協会／(社)日本動物園水族館協会／(社)日本愛玩動物協会／
(財)日本動物愛護協会)

13:40～13:50 《休 憩》

4

13:50～16:30 動物愛護シンポジウム
「めざせ！満点飼い主—ペットの高齢化について考える」

基調講演

「老齡管理で大切な四つの病気を知って、太～く！長～く！生きよう」
若山正之氏 若山動物病院院長 (若山氏は、パネルディスカッションにも加わります)

パネルディスカッション

コーディネーター

鷺巣月美氏 日本獣医生命科学大学獣医学科准教授

パネラー報告1

「高齢動物のQOL—わたしたちができること—」
井上留美氏 ヤマザキ動物専門学校副校長

パネラー報告2

「飼い主ネットワークで犬の老いの不安を解消—老犬教室の実際」
中塚圭子氏 飼い主と愛犬のためのマナー教室「ドルチェ・カーネ中塚」代表

パネラー報告3

「看取りとペットロス」
鷺巣月美氏 日本獣医生命科学大学獣医学科准教授

ディスカッション

質疑応答 (フロアーから)

5

16:30 閉会

<参加無料> 東京国立博物館へは、西門からお入り下さい。



みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%



環境省

Ministry of the Environment